

平成 28 年(2016 年)熊本県熊本地方を震源とする地震  
非常災害対策本部会議(第9回)議事録

日時:平成28年4月18日(月)16:34~16:52

場所:官邸4階大会議室

1. 内閣総理大臣 発言

(内閣総理大臣)

- 被災地では、自衛隊、警察、消防、医療部隊など、約三万人規模の実動部隊を動員し、昼夜を分かたず、懸命の救命・救助活動を行っている。依然として連絡が取れない方や倒壊した建物に取り残されている方がいる可能性がある。引き続き、救命・救助活動に、全力を尽くされたい。
- 避難所や被災地で、不安を抱えながら不自由な生活を余儀なくされている被災者支援のため、昨日設置した「被災者生活支援チーム」から、被害が甚大であった益城町、南阿蘇村、宇土市に、国の職員を本日中に投入する。最前線の現場のニーズを対策にどんどん活かしていくこと。
- 今、最も大切なことは、必要な物資、特にまず十分な食料と水を、被災者一人ひとりの「手元」に、「確実に」行き届くようにすること。
- 民間の配送業者の協力も得ながら、自治体や自衛隊等の総力を挙げて、全力で取り組んでいくこと。被災地では、未だに道路や橋が各所で寸断されるなど、困難な交通状況にあるが、現地で支援を待っている多くの被災者の皆さんに、必要な物資を、しっかりお届けすること。
- とにかく、「被災者生活支援チーム」をフル稼働させ、被災自治体と一体となって、水や食料、オムツなどの生活必需品はもとより、簡易トイレや医薬品等の必要な生活物資を、被災者一人ひとりに、「今日中に」確実に行き届くように、最大限のマンパワーを総動員し、あらゆる手段を尽くすこと。
- 避難の長期化も懸念される中で、高齢者や乳幼児など、配慮が必要な方々へのきめ細かな対応。電気やガス、水道等のライフラインや、道路・橋などのインフラの復旧を加速化させ、少しでも生活環境を改善。そして一日も早く普通の生活に戻ることができるよう、自宅を失った方々に対する宿泊先や、住宅の確保を始め、被災者の生活再建について、できる限りの支援策を講じること。
- 目先の課題に止まらず、先手、先手であらゆる対応を並行的に進めて行くこと。速やかに、「被災者生活支援チーム」の態勢を「100人規模」へと拡充し、万全を期されたい。
- 本日午後、米軍のオスプレイが、自衛隊と協力して、食料、水等の生活支援物資を、南阿蘇村まで輸送している。被災地に到着次第、支援物資を現地の被災者に配布する計画であると報告を受けている。米国の友情に、心より、感謝したい。
- 被災された方々の切実な想いをしっかりと受け止め、「できることは、全てやる」。引き続き政府の総力を結集して、被災者支援に取り組んでいくこと。

2. 被害状況及び各省庁の対応状況について

(総務省)

- 支援チームに先立ち、現地出向経験者を熊本県、熊本市、大分県に派遣した。内閣府防災担当と現地との

橋渡しを果たしてほしい。

- 地方公共団体による支援について。13時15分、水道施設復旧のための技術職員が本日昼過ぎに到着し、早速活動している。
- 消防庁の対応について。毛布及び簡易トイレの搬入状況。毛布については、昨日7万枚、本日0.6万枚搬入が完了した。簡易トイレについては本日午後移動中。
- 携帯電波の停波について。194局まで縮小中。避難所についてはおおむね通話可能との報告を受けている。
- 行政相談について、相談窓口を設け、対応を開始しているとともに、行政相談各種フリーダイヤルを設置している。
- NICTについて、ツイッターを分析し発信された場所を把握するサービスを行っている。有効なツールであり、避難所で必要な物資を把握できる。また、ICT関連サービス事業者の対応として、被災者向けに様々なサービスを提供しており、河野大臣にお願いだが、この各社サービスを周知してほしい。

(防衛省)

- 本日午前中より、鳥栖集積場に滞っている支援物資を直接避難所へ送る活動を実施。しかしながら、整理統制が必要。南阿蘇の平野公民館にヘリで直接食料を搬入している。米軍については、C-130輸送機2機で部隊要員、車両の輸送を行っている。オスプレイで南阿蘇白水運動公園へ物資を輸送している。

(文部科学大臣)

- 被災した児童生徒の心のケアなどを行うスクールカウンセラーや教員の増員等について、現場からの要望を第一に、県教育委員会と十分に連携しながら、迅速かつ適切に対応していきたい。

(厚生労働省)

- 医療関係について。D-MATに関して、150隊派遣していたものが、50～60隊の追加派遣対応予定。
- 小児科医の疲弊が激しいことから、小児科学会に対し要請をしている。
- 病院に関して、毎日定期的に連絡をしているが、連絡が取れないところもある。
- 透析施設に関して、水道局と調整している。県外への移送も調整中であり、10名程度移送予定。
- 精神科医療関係では、D-PATにより430名の転院を支援中。心のケアに当たっていく予定。
- 水道に関し、熊本市内では18万5千戸が引き続き断水。18日中に10万9千戸、数日中に7万6千戸が復旧見込み。技術職員の支援を依頼中。

(農林水産省)

- 90万食の目途は立っている。被災者の増加を踏まえ、引き続き上積み而努力していく。17日13万食、18日36万食の内訳は資料のとおり。輸送に関しては、被災者の手元に届くよう努力していく。パトカーによる先導やヘリコプター活用など、各省庁の支援をお願いする。供給オペレーションが円滑にいくよう、熊本出向経験者を派遣している。

(経済産業省)

- 停電は約 2 万 6 千戸まで減少している。南阿蘇村等を除きほぼ復旧している。
- 電源車を病院や役場に投入。派遣のニーズがあれば対応する。
- ガソリンスタンドに関して、品薄は増強投入したタンクローリーの到着によりほぼ解消した。
- コンビニに関して、9 割営業が回復している。4 月 17 日は 70 万食供給予定である。
- スーパーに関して、7 割営業が回復している。
- 経済産業省から現地対策本部へ 7 名派遣しており、これに加え 3 名追加派遣を行っていく。今後もニーズに応じ増員する。

(国土交通大臣)

- 高速道路の通行止め解除は進んでいる。玖珠別府間はまだ通行止めである。
- 鉄道について、在来線の熊本荒尾間は 13 時 20 分復旧し博多まで開通したが、駅ビルに亀裂が見られ、運転を見合わせている。
- 空港に関し、明日にも ANA、JAL の一部が再開する予定。
- 物流に関し、鳥栖・福岡を拠点に対応している。市町村の指定する場所への輸送については、自衛隊等と連携し行っている。

(環境大臣)

- 熊本市等で全壊 399 棟(4/17 19 時時点)であり、広島豪雨の 179 棟、常総豪雨の 50 棟と比べても多い。
- 支援チームを派遣し、災害廃棄物の仮置場設置等に向けた対策を実施中。
- 片づけごみの収集・運搬に関し、災害廃棄物処理支援ネットワークを活用して支援していく。

(防災担当大臣)

- これまでの支援に感謝。農林水産省が調達したものを自衛隊やパトカーの先導により自治体への配布が進んでいる。予定より少し遅れているが挽回したい。食料・水に続くニーズを把握し手配したい。プッシュ型 90 万食の第 2 陣がスタートし、経済産業省に頑張ってもらい電気も回復した。水もだいぶ回復している。松本副大臣からの報告では、現地の雰囲気は変わりつつあるとのこと。引き続き協力をお願いしたい。

以上